

「私が考える課題解決支援サービスについて」

木曽青峰高等学校 学校司書

竹腰 史佳

(2010年3月15日)

はじめに

ここ数年、高校の図書館では調べ学習のガイダンスをする機会が増えた。課題研究などの、学校図書館を使った調べ学習が増えたのが主な理由だと思われる。ところが実際にガイダンスをしてみると、本の索引や目次を使って自分の必要とする情報にたどり着く方法を知らない、もしくは覚えていない生徒が多いことに驚かされる。そこで多くの場合、百科事典や辞書の引き方といった調べ物の初歩からガイダンスを始めるのだが、高校生になってから覚えるより、小中学校の段階で図書館の使い方が定着していれば、高校ではもっとハイレベルな調べ学習が出来るのではないかと思う。

また、高校卒業後は、大学生や社会人として公共図書館を使うことが考えられる。しかし、自分に役立つ情報を入手するために公共図書館を利用する大人は、現在どのくらいいるのだろうか。今回の学び直し講座第一回「公共図書館における課題解決サービスの理論と先進事例」で見たビデオ『図書館に行こう！「わが社のデータベース」』の中に、公共図書館のサービスを知らないビジネスマンが登場した。演出であると分かっているが、何かを調べようと思ったとき、身近な情報端末からインターネットを検索することで済ませている大人が多いのではないだろうか。図書館で文献にあたることによってより確かな情報を得られることを覚えてもらえば、仕事や学業のための調査目的で公共図書館を利用する、大人の利用者を増やすことができるのではないだろうか。

小学校では夏休みに自由研究を宿題にさせているところが多い。そこで、小学生と、保護者である大人が、自由研究をテーマに図書館での調査の方法を学べる企画があれば、上に挙げた問題を解決できるのではないかと考えた。このレポートでは、公共図書館で個々の課題を解決するために必要な、調査をするための方法を学ぶ支援サービスを提案する。

図書館企画 「親子で学ぶ図書館サービス ～夏休み自由研究ガイド in 図書館～」について

目的

小学生の夏休みの自由研究を通じて、学校図書館だけでなく公共図書館を使った調査の方法を、小学生およびその保護者に理解してもらおう。公共図書館を使った課題解決の方法を覚えてもらうことによって、児童だけでなく大人にも、図書館が役に立つ場所であることを理解してもらい、その後の図書館利用につなげていく。

提供方法

夏休み開始直後の休日に、図書館に利用者を招いて行う。

時間的・人的余裕があるならば、導入部分を夏休み前の学校図書館で児童と教職員に対して行っても良い。その後、本編を公共図書館で児童とその保護者、教職員の希望者に対して行う。

サービス内容

児童への自由研究ガイド

低・中・高学年、または学年ごとにグループ分けをして行う。低学年には児童コーナーをメインにガイドをするが、高学年には児童コーナー以外の参考資料も紹介する。

自由研究のやり方ガイド

内容：テーマの決め方、研究の進め方、レポートや模造紙のまとめ方など
調べ学習ガイド

内容：資料紹介を兼ねたブックトーク、実習を含めた参考図書の利用紹介、インターネットの児童向けホームページ紹介、自由研究のテーマになりそうな分野の類縁機関紹介と問い合わせの方法などの紹介

パスファインダー作成

モデルとなるテーマを数テーマ決め、調べ学習ガイダンスにも使ったレファレンスツールをまとめたものを参加者に配布

ブックトーク

調べ学習に使える本を、あるテーマに沿って紹介する

保護者への図書館利用ガイド

自由研究の調査方法のほかに、医療問題や、法律問題、ビジネスに役立つ情報といった大人に役立つテーマについて、パスファインダー等を使った利用ガイドを行う。児童に対してのガイダンスの時間に同時進行で行う。

図書館の使い方ガイド（大人向け）

文献の引き方、インターネットで確かな情報をつかむ方法などを紹介するパスファインダー配布

前述のような、大人に役立つテーマで複数準備して参加者に配布する。

これらのガイダンスは図書館職員が行う。ガイダンス中には職員自身の売り込みもし、後日来館した利用者が話しかけやすいように配慮する。

資料・情報の構築方法

- ・ 児童向け参考資料の別置（コーナー作り）
 - 雑誌、本、インターネット端末などを近くにまとめる
- ・ 自由研究に役立つパスファインダーの作成
 - 社会科系、自然観察系、社会見学系、化学実験系、工作系などに分けて作成。それらには、博物館や美術館、役所の関連部署など、研究テーマに関連して、問い合わせができる機関の連絡先などを載せる
- ・ レファレンスコーナーの設置または充実
- ・ 大人向けパスファインダーの作成
- ・ 百科事典などの引き方を図書館のサイトに載せる
- ・ 調査に使えるサイトを図書館のサイトにリンクする

関係機関・団体との連携

- ・ 近隣の小学校の児童および職員、小学校のPTA へのPR
- ・ 該当の学校図書館担当職員から、ガイダンスの内容について要望があれば

反映する

- ・児童が問い合わせそうな機関に、窓口となる部署があるかどうかの確認をし、連絡先をパスファインダーやホームページに載せる許可をもらう

職員に必要とされる知識・技術

・知識

児童用参考図書の知識

最近どんな自由研究がされているか、学校が何を求めているかの把握

子ども向けインターネットサイトの使い方の知識

一般利用者の調査に役立つ資料やサイトの知識（医療、福祉、法律など）

など

・技術

必要な情報は何か、利用者から聞きだせるインタビューの技術

ブックトーク、ガイダンスを実演する技術

テーマに沿った資料を確実に集める技術

学校や類縁機関へ連携をとれる技術

など

以上、小学校の自由研究を題材に、子どもと大人が図書館を使った調査の方法を一緒に学べる企画を提案してみた。

小中高の学校図書館は、所蔵する資料に限られた特殊な図書館である。大人になるまでは公共図書館と学校図書館を併用することが望ましい。そうすることで、学校図書館が使えなくなってからは、公共図書館の利用へとスムーズに移行していってもらえれば良いと思う。

また大人については、こういった企画をきっかけに、公共図書館へ調査目的で来館する利用者が増えてくれると良い。

図書館は読書だけをする場所ではない。自分たちに役立つ情報がたくさんあり、それらに自由にアクセスすることができる場所が図書館である、ということを理解して、生涯役立てていってもらえれば良いと思う。

《参考資料リスト》

- ・『調べ学習の基礎の基礎 だれでもできる赤木かん子の魔法の図書館学』赤木かん子著、ポプラ社、2006年
- ・『お父さんが教える自由研究の書きかた』赤木かん子著、自由国民社、2009年
- ・夏休み自由研究プロジェクト（学研キッズネット）
<http://kids.gakken.co.jp/jiyuu/>